11 月例会「紅葉・ドングリを食べる探険」報告

平成３０年 11 月 25 日（日）。午前１０時～午後１時、立田山野外保育センター雑草の森。参加者 142 名（うち会員 27 名）。立田山野外保育センターとの共催。

前日までの寒波もゆるみ、朝から晴れてホカホカ陽気。絶好の観察会日和となりました。雑草の森には予想を上回る沢山の子ども連れの家族が次々とあつまり、１１月例会の始まりが１０分遅れてしまいました。

最初にチビッ子代表の開会宣言。藤井会長が「数日来の寒波でどんぐりも落ち始めました。今年は豊作のようです」と挨拶。最初にみんなで紙芝居「どんぐりのお話」「縄文人とどんぐり」を見て、「立田山で観察できるドングリの種類」「ドングリ虫のこと」「縄文時代、ドングリは秋から冬にかけて主食だったこと」などを学びました。

いよいよドングリ拾いに出発。参加者は３班に分かれ、自然観察指導員の案内でセンター前庭のアラカシやクヌギ、落ち始めたコジイ（ツブラジイ）などを拾い、秋の風情を観察しながら夏の森を目指します。ノウサギのウンチやユウレイグモ（ザトウムシ）も発見。夏の森のマテバシイの木の下には、あちこちにマテバシイが落ちています。子ども達のビニール袋は沢山のドングリでいっぱいになりました。

センターでは、センター指導員の先生も参加して女性スタッフが小麦粉や豆乳などを材料にパン生地づくりに汗を流し、緒方センター長と男性スタッフが軒下のドラム缶コンロに炭火を起こして子ども達の帰りを待ちます。

子ども達が歓声を上げながらセンターに帰ってきました。拾ってきたドングリを水につけ、沈んだドングリだけを選びます。浮いたドングリは、中身が小さいか、ドングリ虫が食べたようです。選別がすんだドングリは、スタッフがフライパンで炒ってくれました。

次に、あらかじめ茹でておいたマテバシイの堅い殻を金槌で割り、中身を取り出して、ドングリパン焼きの準備完了。

さあ、お待ちかねのドングリパン焼きです。参加者が多かったので先ずは子ども達から。スタッフからもらったパン生地にマテバシイの実をトッピングし、棒状に伸ばして竹の棒に巻きつけ、ドラム缶コンロの炭火で１５分ほど焼くと美味しそうな香りがして出来上がり。大人も子どもも熱々のドングリパンを頬張りながら「おいし～い」と大感激です。あちこちから「ドングリって本当に食べられるんだ」と驚きの声が聞こえました。

あっという間に楽しい時間が過ぎ、１２時４０分にやっとチビッ子代表の閉会宣言。余りの参加者の多さに会の進行やパン生地の準備などに混乱があったものの、ケガもヤケドも事故もなく、１１月例会を無事に終わることができました。格別のご配慮をいただいたセンター職員の皆さん、火起こしやパン焼き指導のお手伝いをいただいた参加者の皆さん(お父さんたち)に感謝いたします。